

## 安彦 忠彦

(あびこ ただひこ、1942年3月16日生)

日本の教育学者。  
神奈川大学特別招聘教授  
名古屋大学名誉教授  
中央教育審議会委員

1942年東京都生まれ。東京大学教育学部卒業、同大学院教育学研究科博士課程1年中退。大阪大学文学部助手、愛知教育大学教育学部専任講師・同助教授、名古屋大学助教授・同教授、早稲田大学教育・総合科学学術院特任教授、2012年4月より現職。

この間、名古屋大学教育学部附属中・高等学校長、同大学教育学部長などを歴任。2005年2月より第3期中央教育審議会委員(6期の現在も)

専攻は教育課程(カリキュラム)論(主に中等)を中心に、教育方法・教育評価。博士(教育学)。

### 主な著書

- 『公立学校はどう変わるのか』教育出版、2011年
- 『「教育」の常識・非常識—公教育と私教育をめぐる—』  
〈早稲田教育叢書〉、学文社、2010年
- 『改訂版 教育課程編成論—学校は何を学ぶところか—』放送大学教育振興会、2006年
- 『カリキュラム開発で進める学校改革』明治図書、2003年
- 『中学校カリキュラムの独自性と構成原理』明治図書、1997年 博士論文
- 『新学力観と基礎学力』明治図書 1996年
- 『自己評価 「自己教育論」を超えて』図書文化 1987年